

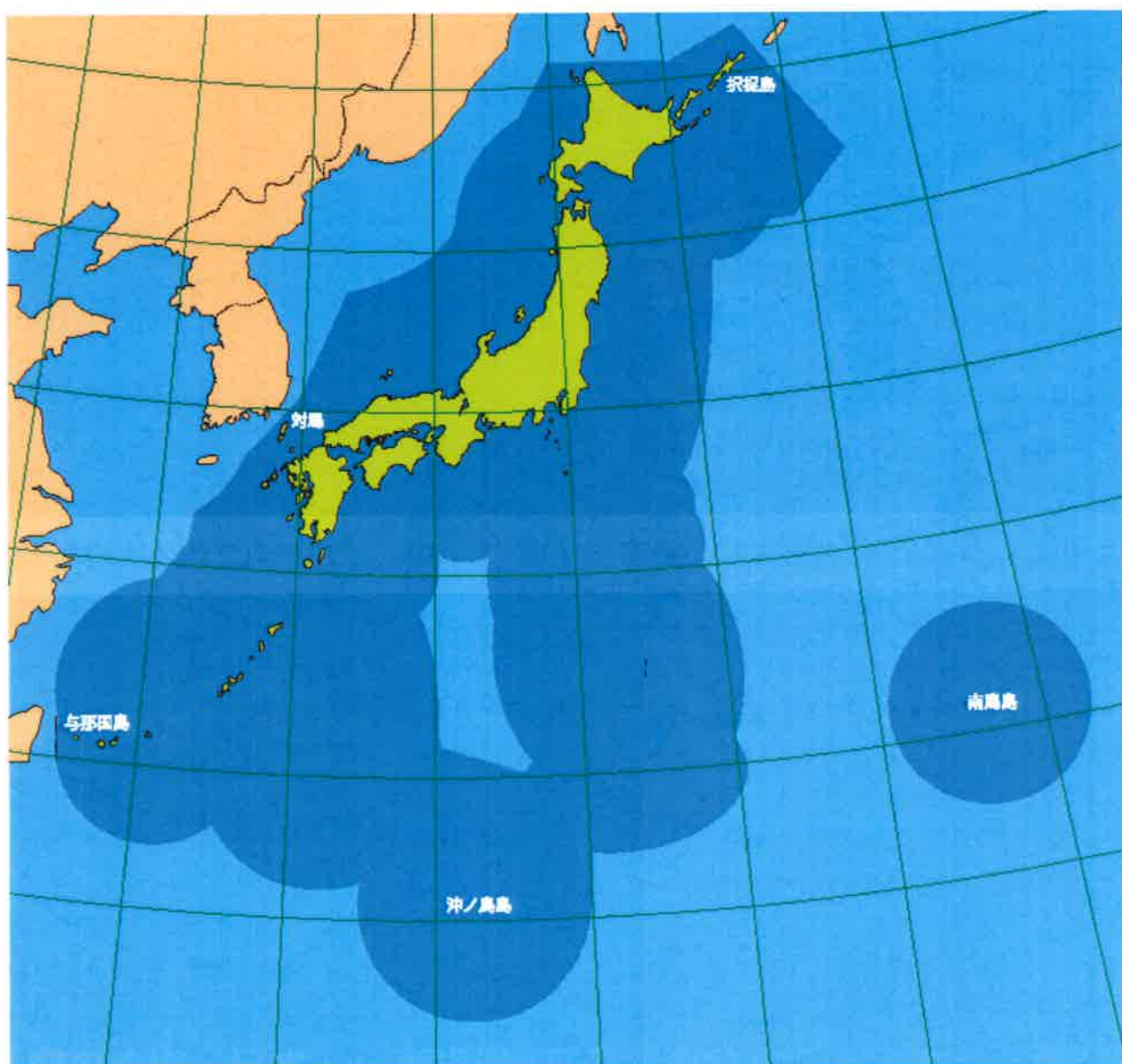
市民発。こどもたちをはぐくみ、日本の未来をつくる、海と魚のアカデミー

Ocean World Academy of Japan

にっぽん
NPO 『海のくに・日本』

日本の海の広さは世界で6番目。海水の堆積量は4番目です。

日本人は海とともに生きて、歴史と文化をつむいできた「海の民」なのです。



▲日本の最北端はえとろふとう択捉島、最東端はみなみとりしま南鳥島、最南端はおきのとりしま沖ノ島、最西端はよなくにじま与那国島。韓国との国境はつしま対馬です。

2012年秋、海と島のくに・日本を学びます！

<趣旨と目的>

いま、国をあげて日本が海洋国家であることを認識するとき

海洋基本法が制定され5年がすぎましたが、いまだ日本国民の間に海や海洋資源への関心は低く、ひとりひとりの心に感謝の思いは育まれていません。四方を海に囲まれた日本において、私ども日本人は古来、海とその恵みに育まれて暮らしてきました。

日本の未来を担うこどもたちに、日本の海と魚を伝える

この地理的・地政学的な条件と真摯に向き合い、海と日本人との関わりについて日本の国民挙げて考える機会が必要であり、そのことを日本の未来を担う若い世代に伝えることが必要と考えます。そのために、海や魚について情報収集し発信するベースキャンプとなる組織の発足を考え2010年1月、「海のくに・日本」設立に向けスタートをきりました。

こどもたちへの情報発信と体験学習を推進し、自ら考える力をつける

NPO「海のくに・日本」は、日本が海洋国家であることを再認識し、古来、海とともに生きてきた民であることに自信と誇りを持つことを理念とし、海というすばらしい資源、数千年にわたって培われて来た多彩な漁業や豊かな魚食文化、日本の各地域で生まれた郷土色豊かな漁村文化を、日本の未来を担う子どもたちに伝える活動を行うことで、広く国民に普及・伝承することを目的とします。

具体的な活動で豊かな海を実現し、日本の未来を紡ぐ

また海洋事業及び水産業の発展並びに漁業地域の活性化のための事業を行うことで、水産資源の持続的な利用を促すとともに安全・安心な水産物の供給及び自給率の向上に寄与します。

日本列島にあたえられた、生命あふれるゆたかな海。海を保全し、豊かな自然環境を次世代につなげるため、「海のくに・日本」は具体的な活動を積み重ねて参ります。

<プロジェクト>

1. こどもたちに海と魚の本を届ける「絵本プロジェクト」
2. 海と海辺を再生する「海の森づくりプロジェクト」
3. 東京湾を学び江戸前文化を実感する「江戸前プロジェクト」
4. 消費者と漁業生産者の交流を深める「お魚プロジェクト」
5. 日本は6800の島から成る島しょ国であること、日本の国境が海上にあることを学ぶ「海のくに・日本 プロジェクト」

* それぞれ、プロジェクト座長を中心に進めます。



▲とれたての海の幸を味わう（宮城・女川町）



▲漁業を見学する（八丈島／ムロアジ漁）



▲魚を自分でさばく（於、東京／氷見のブリ）



▲海の森づくりに加わる（富山・新湊）

NPO「海のくに・日本」理事

| | |
|--------|--------------------------|
| * 理事長 | 白石ユリ子（ウーマンズフォーラム魚代表） |
| * 副理事長 | 本間千枝子（作家、元三鷹市教育委員長） |
| * 理事 | 樋口 榮治（N・Brains 代表） |
| * 理事 | 山本 徹（日本生活文化交流協会理事長） |
| * 理事 | 薦田 孝子（株エス・エス・ジー代表） |
| * 理事 | 北川みわ子（日本生活文化交流協会理事） |
| * 監事 | 小田 康夫（国際テストパイロット協会特任副会長） |
| * 監事 | 中須 勇雄（財団法人農林水産長期金融協会会長） |

NPO「海のくに・日本」の発起人（五十音順）

| |
|-----------------------------------|
| 青山 繁晴（株独立総合研究所代表取締役社長 兼 首席研究員） |
| 青山 千春（株独立総合研究所取締役自然科学部長） |
| 明石 康（国際文化会館理事長、元・国連事務次長） |
| 秋道 智彌（総合地球環境学研究所・名誉教授） |
| 浅利 慶太（劇団四季代表） |
| 伊藤 裕康（全国中央市場水産卸協会会長、中央魚類株会長） |
| 岡部 まり（エッセイスト） |
| 木村 清（株喜代村代表取締役社長） |
| 小泉 武夫（食文化論者、東京農業大学名誉教授） |
| 櫻井よしこ（ジャーナリスト） |
| 銭谷 眞美（東京国立博物館長） |
| 鈴木 辰興（元・宮古水産高校校長） |
| 高橋 正典（株高政代表取締役社長、おながわ秋刀魚収穫祭実行委員長） |
| 高山 厚子（沖縄料理研究家、元・板橋区立金沢小学校長） |
| 谷川 尚哉（中央学院大学准教授、地理教育研究会理事） |
| 徳川 恒孝（財団法人徳川記念財団理事長） |
| 服部 幸應（学校法人服部学園理事長） |
| 英 正道（財団法人日伊協会名誉会長、元・駐伊大使） |
| 原 周平（株フルタイムシステム代表取締役副社長） |
| 牧野 忠昌（柏友会・旧越後長岡藩藩士会 名誉会長） |
| 松平 恒忠（社団法人日本英語交流連盟会長） |
| 松山 優治（前・国立大学法人東京海洋大学学長） |

少しずつ、教育の場に海の風が吹き始めています。

絵本「クジラから世界が見える」が2011年度から
小学5年生の教科書に掲載！（国語・学校図書株）



左)2007年発行(作:白石ユリ子、絵:中村信 /遊幻舎)
右)2011年発行の5年生の国語教科書(学校図書株)
* 日本全国の子どもたちがクジラと日本人の関わりや、
クジラをめぐる世界の状況を学びます。

学校で、家庭で、海と魚への理解を深めてほしい。

絵本シリーズ「海のくに・日本」を制作し、
全国2万3000校の小学校へ届けたいと考え
準備を進めています。(写真は完成予定)



「海洋」「資源」「海の祭り」「海と魚を生かした偉人」
「海の安全」「海の食卓」などテーマでとらえた10冊と全
国を網羅した15冊を予定しています。

「海のくに・日本」にぜひ、加わってください。 応援してください。

ひとりひとりのお力が、日本を動かします。

◎個人会員のご案内

「海のくに・日本」の輪を広げるために、ご参加ください。
できたばかりの「海のくに・日本」ですが、イベントにご参加いただいたり、会報誌をご覧いただき、身近なところで「海のくに・日本」のたいせつさを伝えるおひとりになってください。

個人会員 年会費 3,000円(一口) 会報誌のご送付。イベントのご案内を申し上げます。

企業や団体のご支援が、日本と世界のより良い未来をつくれます。

◎法人会員のご案内

子どもたちへの教育は、日本の未来を担う力を育てること。海辺の環境を守ることは、日本人のいのちをまもること。そして海についての情報発信は、現代人の暮らし方を変え、海辺の町に活力をあたえます。近年、日本の経済水域内に眠る資源に関心が向いてきましたが、海には地下資源だけではなく海そのものや海水、海辺にも、まだまだ多くの可能性を秘めています。

1999年に国連のアナン事務総長が提唱された「グローバル・コンパクト」は、世界の諸問題を解決するのに国連と世界各国の企業が力を合わせる必要性が説かれたものでした。日本国内においても、企業や諸団体と市民活動が力をあわせることで、大きな成果を生みだすことができそうです。

ぜひ、「海のくに・日本」の活動にご支援ください。

法人会員 年会費 10,000円(一口) 会報誌のご送付。イベントのご案内を申し上げます。
ホームページに御社名を掲載させていただきます。

未来の日本への投資として、「海のくに・日本」を応援してください。

◎賛助会員のご案内

「海のくに・日本」の活動を継続して行うために、賛助会員としてのご参加をお願い申し上げます。

会報誌のご送付、イベントのご案内、ホームページへの掲載(法人)、特別行事へご招待申し上げます。

個人賛助会員 年会費 10,000円(一口)

法人賛助会員 年会費 50,000円(一口)

☆サポーター大募集!

活動を進めるため、ご寄付をお願いいたします。一口、3000円のサポーターです。

よろしく願いいたします。

年度末の会報誌でお名前をご紹介します。

◎「海のくに・日本」ご入会は、お申し込み書にお書き込みのうえ、下記事務局までお送りください。

NPO「海のくに・日本」事務局

〒104-0061 東京都中央区銀座 3-12-15 銀座細谷ビル

TEL. 03-3546-1242 (専用) 03-3546-1291 (WFF事務局) FAX. 03-3546-1164

E-mail: gyo@wff.gr.jp ホームページ: <http://www.wff.gr.jp/umi/index.html> (2012.11.15)